まつやま子どもの想い作文コンクール

優秀賞受賞作品

お母さんの子どもだから

新田青雲中等教育学校　３年

金澤侑芽（かなざわ　ゆめ）

「ママの子どもだから好きです。」
そう答えたのは小学一年生の道徳の授業参観。自信満々に発表した後、そっと振り返ると、恥ずかしそうに、でも嬉しそうに微笑む母がいた。「あなたは自分のことが好きですか。」という問いにそんな理由をつけて答えたのは私だけだったかもしれない。

朝早く、颯爽と仕事に出掛ける母は誰よりもかっこよく私の憧れであり、いつも優しく時に厳しい母が私の自慢だった。

しかし私が成長するにつれ、母の弱さや愚かさが次第に目に付くようになった。仕事が忙しいと怒りっぽくなる母。仕事を理由に家事から逃げる母。何かと私に干渉する母。そんな母を疎ましく感じることも多くなり、母の言葉にいつしか反発を覚えるようになった。

去年、私は登校中自転車事故を起こした。自分の不注意で起こした事故にもかかわらず相手の方への謝罪に行くことを拒む私に母は怒りもせず
「じゃあ、警察に行って自分の目で確かめなさい。」
と言った。私は動こうとしなかった。あなたが悪いと言われるのが怖かった。うずくまっている私の前に母は静かに座り、
「自分の非を認めなければ前へは進めない。どんな侑芽でもお母さんは受け止めるよ。」
と言い抱きしめてくれた。その瞬間私の頑なな心がほどけた。母は新たな一歩を踏み出すには自分としっかり向き合うことが大切だと教えてくれた。

今でも母はだらしないし、かなり格好悪い。しかし私は母の中に人として最も大切な在り方を感じている。

もし今、「自分のことが好きですか。」
と聞かれたら私は迷わず大きくうなずき、あの時と同じ言葉を返すだろう。
「お母さんの子どもだから。」